



学校だより

2月号

令和5年1月31日

体力をつけながら、心も逞しく

校長 高橋義成

「ラスト!がんばれ!」校庭では、仲間を応援する歓声が響いています。1月末に行ったランニング記録会に向けて、年明けから子どもたちは走りこんできました。今年度は子どもたちの取り組み方も成長が感じられます。一人ひとりが自分に挑戦している姿を見る時期が早いように思うのです。取り組み始めの頃は、自分に合うペースが分からないこともあり、ゆっくりと走って最後まで全力を出し切れなかったり、友達と一緒に走ってペースを上げられなかったりする様子が見られます。今年度成長を感じるのは、5年生・6年生が早い時期から本番に近い動きをしていることです。「本番だけ頑張ればいいや。」と逃げたくなる中で、練習の1回1回に本気で向かっているように見えます。目の前のことに全力で向かえる姿勢が身についてきたのならすばらしい成長です。

このコロナ禍の前後で体力テストの結果を比べると、最も下がっているのは、男子は15~16歳、女子は11~12歳でした。もちろん全体的に下がってきているのは言うまでもありません。最近の下野谷小学校でマラソン大会が始まったのは、平成14年(2002年)のことです。その年、私は上末吉小学校から下野谷小学校に異動し、4年生を担当していました。体育の授業で校庭を3周走ってストレッチをするように子ども達に伝え、準備をしていた時のことです。1周目でほぼ全員が歩きはじめてしまいました。私はとてもショックを受けました。当時、運動委員会を担当していましたので、子ども達に働きかけてマラソン大会を計画することとしました。平成31年に校長として下野谷小学校に赴任すると、ランニング記録会として活動は継続されており、とてもありがたいことと思いましたが、ゆっくり走ることをめあてとしていました。そこで、競い合う楽しさも改めて加え、タイム走とペース走の選択制にシフトしました。私は5年間ほど陸上のクラブチームの監督をしていた経験があるのですが、中長距離走で言うと1500mのタイムは誰もが1分以上、中には2分以上縮める子もあり、頑張ったぶんだけ成果が出やすい運動領域です。学校でも順位やタイムだけでなく、こつこつと取り組むことも褒めていこうと考えています。手洗い・うがいを継続しながらインフルエンザにも負けない体づくりにつなげていきたいです。

<令和5年度の時間割について>

今年度から1コマ40分授業をとりいれ、寺子屋タイムで基礎学力の定着などにも取り組んでまいりました。保護者の皆様には、下校時刻が早まり、多くのご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。1年間取り組んだところ、給食、掃除、昼休みの時間帯で子どもたちにゆとりが無くなり、慌ただしくなることが分かりました。そこで、次年度(4月)から、5分程度下校時刻を遅らせる可能性もございます。今後、さらに検討し、まとめ次第早めにお知らせさせていただきます。